

自信をもって伝えよう・動き出そう

～iPadminiでの取り組み～

三重県立特別支援学校北勢きらら学園

佐藤千夏

【対象児の情報】

○学年 小学部3年生

○障害名 知的障害 肢体不自由

○障害と困難の内容

- ・失敗体験がある活動や慣れない活動に強い抵抗を示す。周囲の人や物の動きで、目の前の活動から注意がそれやすい。
- ・スケジュールカード（1～2つ+好きな事）を見て自分から動き出せることがある。
- ・前の活動カードを終了せずに、次の活動カードの確認を嫌がることが多い。
- ・単語（幼児語）や指さし、ジェスチャーでの表出がある。言葉（音声言語）を求められると抵抗を示すことが多い。
- ・コミュニケーションカードを使用し（小学部2年生～）、限られた場面で、2語文で伝えられることがある。
- ・カードを“渡す”行為に弱さがみられ、誰に伝えてよいかわからない・伝えることへの自信のなさがうかがえる。
- ・独歩可能

【活動目的】

○当初のねらい（1）スケジュールや手順書を確認し、自分から活動にうつることができる。

（2）誰にでもわかる手段で好きな事や欲しい物を身近な大人に表出できる。

○実施期間 2014年6月13日～現在

○実施者 浅生斉、奥田加奈、川合圭子、河井晴美

○実施者と対象児の関係 担任



昨年度から使用の
スケジュールと
コミュニケーションカード

【活動内容と対象児の変化】

○活動の具体的内容と対象児の事後の変化

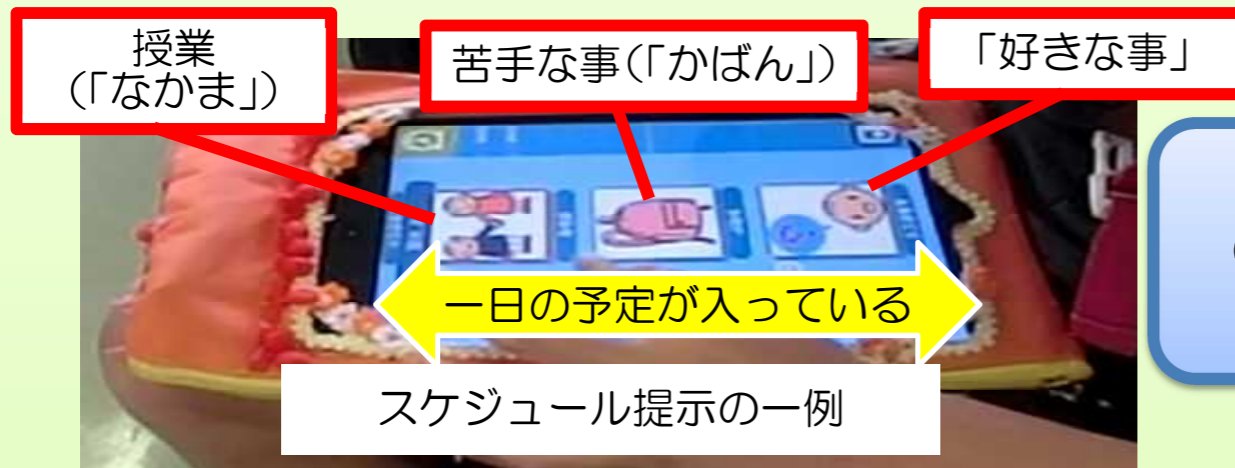
肩掛け式のストラップを使用し、登校後から下校時まで本児がいつでも iPadmini を操作できるようにした。

(1) スケジュール：たすくスケジュール



活動内容

- 登校から下校までの一日のスケジュールを入れておく。
- 確認、終了の操作は本児が行う。
- 苦手な活動の直後に「好きな事」を設定（8～9回/日）。



2つのアプリの特徴
○シンボル拡大表示
○音声が出る

変化

〔スケジュール確認→動き出し〕

- 😊 一日のスケジュールを提示することで、その中の楽しい予定を期待して自ら動けた。
- 😊 「好きな事」の内容を変化させる、頻度を多くする、具体的な提示方法（写真や具体物）にする、と動き出せた。
- 😞 スケジュール確認を拒否する姿もみられた。
- 😊 「好きな事」を自分で追加し、苦手な事へ動き出せた。

(2) 表出：たすくコミュニケーション



活動内容

- 表出の場面を毎日設定（「好きな事」の時間、給食、授業中）。
- 一人の教員が本児の約3m以内にいるようにする。
- 事前に20枚程度のカードをアプリに登録（人、名詞、動詞、属性）



変化

〔6～7月〕一日の表出：15～20回

- 😊 単語や2語文から3語文（人+名詞+動詞）に。
- 😞 週担当の教員がいないと、伝えずに待っている。

〔9月～〕一日の表出：30回程度

- 😊 家庭で、家族に欲しいおやつや飲み物を表出。
- 😊 週担当以外の教員にも表出。

〔10月～〕一日の表出：30回程度から増加傾向↑

- 😊 4語文での表出（大小、長短、温冷、1～5の数）

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

スケジュール確認→動き出しにつながったのは…



☆「好きな事」へのモチベーションを高める
好子の内容、提示の頻度と提示方法などを見直した。

内容は
粗大運動<感触遊び、ごっこ遊び、キャラクター
+新規性 +本人が選ぶ

頻度は
「苦手な事」の直後に
必ず

提示は
シンボル<写真<具体物 +声かけ

追加するのは
教員<本人

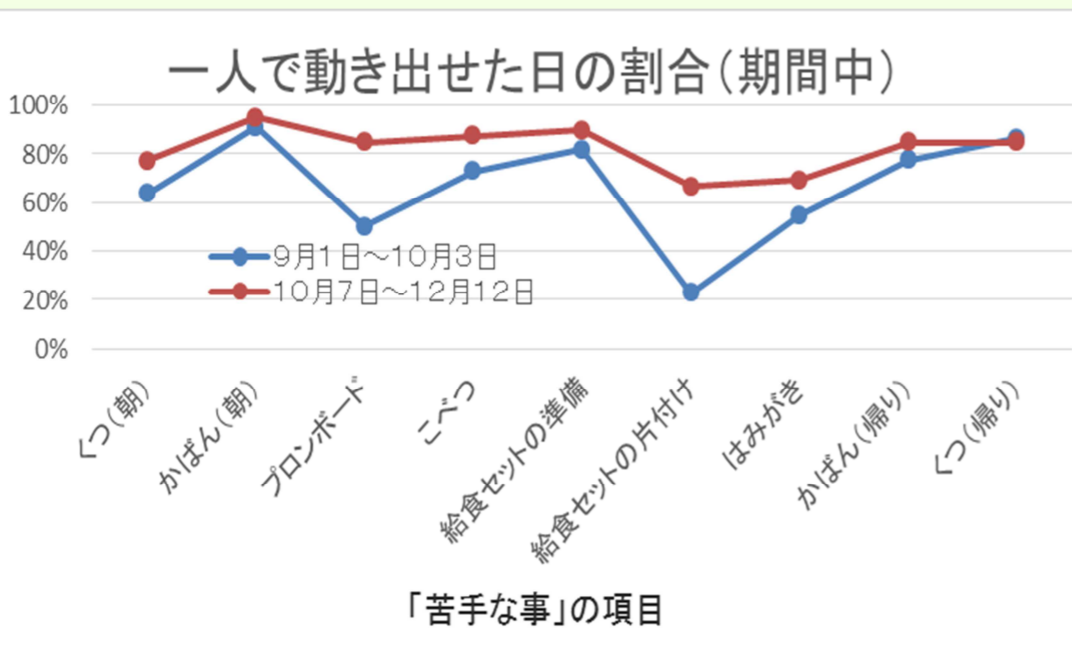


新しいカードを、すぐに写真を撮って追加できる！
カードがいつも整理されていて、本人が選びやすい！
一日の予定の提示+「好きな事」をたくさん提示しても持ち運べる！

☆「苦手な事」の課題を精選
「苦手なこと」の課題分析をし、担任間で支援を統一した。

○気づきに関するエビデンス

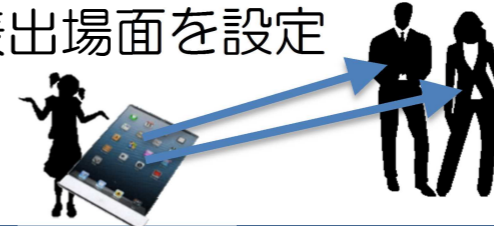
上述の手立て
で取り組んだ結果、課題の苦手さや、環境の違い（人の多い玄関や食堂）によって差はあるものの、全体的に「苦手な事」で動き出せる日が増加した。



表出が広がったのは…

☆人（伝える相手）に関して

週担当以外の教員への
表出場面を設定



距離、身体の向き、視線の条件のハードルを下げた。(近く、正面、視線を合わせる)

☆内容の広がり→回数の増加・別場面への汎化

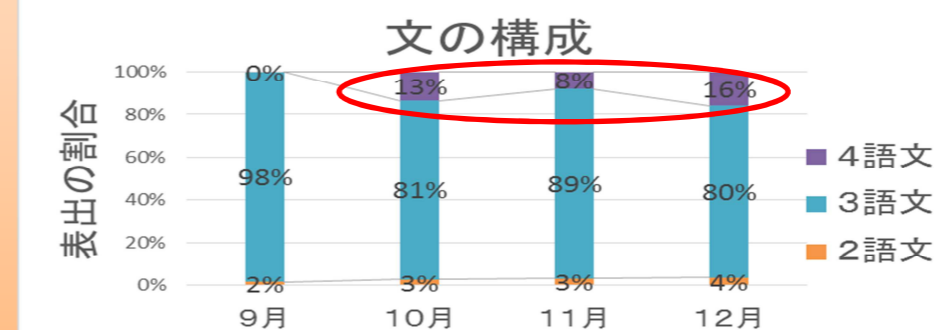
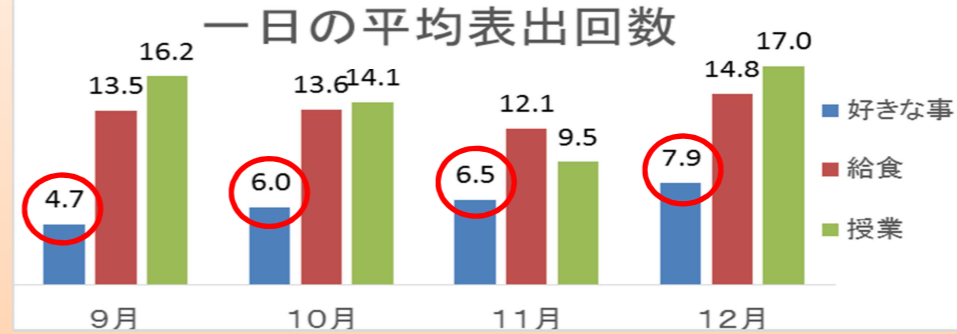
表現したかったこと(内言語)

表出の手段
4語文

伝える
自信に

人的支援がなくても、カードの語順を正しく並べられる！
→失敗が少ない。
音声が出る！ →相手に伝わりやすい。

失敗でつまづきやすい本児にとって
伝える意欲を生みやすいツール！



4語文での表出が増加。好きな事の表出回数も増えている。12月は設定場面以外で自発的な4語文での表出が増え、表出回数も増加した。

【今後の見通し】スケジュールを活用し、「〇〇したら、好きな事ができる」という経験や、表出アプリで伝わる成功体験をさらに増やしていきたい。

自分から動き出すために

〔支援者が行うこと〕

- ・ 好子の内容・提示についての理解
- ・ 苦手の把握と支援の統一



〔短期目標〕

学校内で、自分から動き出せる活動を増やす。

身近な大人に伝えるために

〔支援者が行うこと〕

- ・ 伝えたくなる好子・場面の工夫
- ・ 強み（詳細な表現）を伸ばす



〔短期目標〕

条件が変わっても、確実に担任に表出できる。

卒業後は… どこでも、誰とでも、自分から動き出したり伝えたりするために、人的な支援（カード選択などの操作、距離・体の向き・視線等の条件）が少なくともアプリを活用できる姿をめざしたい。

校内への啓発活動の紹介

AAC・ICTプロジェクトチーム

【目的】「AAC や VOCA・iPad など ICT 機器の組織的な有効活用」
「AAC や ICT 機器の活用が個人から校内全体に広げることを目指す」

事例検討会を開催。学部を越えて意見交換を行った。
(年間6回)

外部研修を通じた
情報収集を行う

「やってみたい」
「知りたい」とい
う時の相談窓口

スイッチの活用を
広めるために作成
の機会を持つ

実践情報交換の
場を提供する

